

気候危機の解決・核兵器の廃絶を！ 未来サミットに日本のユースの声を届けたい！

国連「未来サミット」渡航 報告書

2024年9月22日・23日にニューヨークの国連本部で、未来世代のために地球規模の課題への国際的な協力を各国の首脳が話し合う「未来サミット」が開催されました。国際社会の具体的な行動指針を示した成果文書「未来のための協定」が採択されています。

この未来サミットへ、日本のユースの声を世界に届け、帰国後には未来のための協定を日本で広めたいという思いから、若者の政治参加、核兵器廃絶、気候変動対策などに取り組んでいる私たち日本のユース団体有志が参加しました。現地での取り組みや、体験したことなどについて、主に「ユース参画」と「核兵器廃絶」、それぞれの視点でレポートにまとめました。ぜひご覧いただき、引き続き私たちの取り組みを応援いただき、ともにより良い社会を作っていくことができれば幸いです。

渡航に際し、クラウドファンディングでは58名の方から、479,000円のご支援をいただきました。銀行振り込みなどでもご寄付をいただきました。サポートいただいたすべての皆様に心から感謝申し上げます。

2024年12月9日

日本若者協議会 芹ヶ野 瑠奈

GeNuine 徳田悠希

一般社団法人かたわら 高橋悠太

※本プロジェクトは「核なき世界基金」「ヒロシマ平和創造基金 ヒロシマピースグラント」の助成を受けて、実施しました。

若者の政治参加の視点から見た未来サミット

日本若者協議会 芹ヶ野 瑠奈

9月の22日、23日にニューヨークの国連本部で未来サミットが開催され、20日と21日にはその前夜祭として「アクションデイズ」が開催されました。私は幸い、これら全てに出席することができました。

前夜祭でのオープニングセレモニーについて

4日間国連本部に通う中で少しずつ見えてきたのは、国際レベルでも日本の国内レベルでも、意味のある形での若者の政治参加が足りていないということでした。今振り返ると、初日のアクションデイズの初めのオープニングセレモニーでそれはもう明らかでした。20日のアクションデイズでは、国連の初の取り組みとして前夜祭が「ユース主導」で行われ、なるべくユースが企画や運営を行っていました。そしてオープニングセレモニーでは会場内でライブアンケートが行われ、「若者の政治参加の現状は6つレベルの中でどの段階だと思うか？」という問いが会場に投げかけられました。結果は、6段階の選択肢の中で一番参画のレベルが低い”Tokenism“（形だけの参加）が一番多い答えで、その次が”Youth Informed”（ユースは情報を得ている）でした。これに対し、国際連合広報センターの根本かおる所長は、自分の25年間ほどの国連人生の中でこのような「ユース主導」の前夜祭を行う取り組みは初めてであったこと、そしてそれにも関わらずアンケートでは「ユース主導」とは程遠いという結果となったことに驚いたと述べていました。

In your opinion, what is the current stage of youth participation?

Mentimeter

1 Tokenism

2 Youth Informed

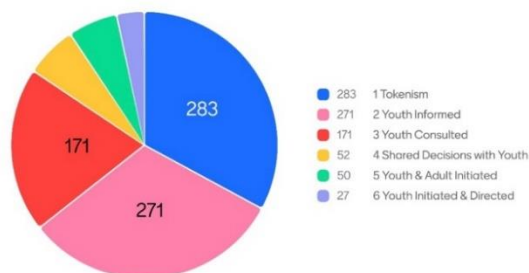
3 Youth Consulted

4 Shared Decisions with Youth

5 Youth & Adult Initiated

6 Youth Initiated & Directed

In your opinion, what is the current stage of youth participation?



(画像) オープニングセレモニーで行われたライブアンケート

オープニングセレモニーではナイジェリア出身の若い女性のDJがMCを務め、ケニアやイエメンなどで活動をしている若い人がスピーチを行っていました。本当に「ユース主導」です。すると、「次は日本のkawaiiゲストです！」とMCがアナウンスをしたので「あれ、日本からも若いゲストがいる？一体誰だろう？知っている人だろうか？」と、とてもドキドキしました。その正体はなんと、大きなスクリーンに映ったハローキティちゃんでした。SDGsの服を纏い、英語のスピーチを行うハローキティちゃん。確かにハローキティちゃんは可愛いし、サンリオは日頃から国連とコラボレーションを行なっているのはわかりますが、先ほどまで力強い若い活動家が連なっていた中で、日本の番になるとキャラクターであるキティが現れる（しかも年齢は50歳以上）、という落ちに私はかなりショックを受けました。私は日本で活動している、世界に誇れる若い活動家を日頃からたくさん見ているからです。せめてキティちゃんの隣にその中の誰かを添えたかった。今思うと、この出来事はまさにその後の展開を暗示していました。

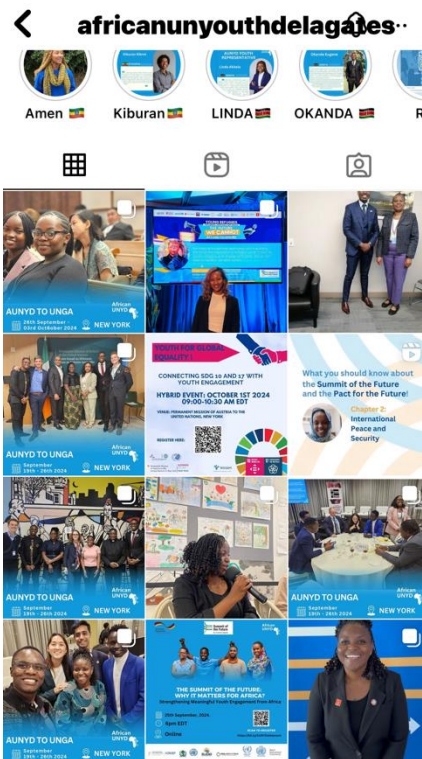


(写真) 日本からのゲストとしてオープニングセレモニーに登場したハローキティちゃん

United Nations Youth Delegates について

20日の朝、気候変動の活動と一緒にいる仲間から未来サミットに参加しているアイルランドのユースと繋がりたいという連絡が入り、無事にそのアイルランドの二人と会うことができました。その二人は United Nations Youth Delegates (UNYD / 国連ユース代表) として未来サミットに

参加していました。UNYD とは、国際連合経済社会局(DESА)が行っているプログラムであり、各国の若者がこのような国連の会に国の代表として参加できるプログラムです。さらに、形だけの参加ではなく、彼らの発言はその国の発言として捉えられます。UNYD の人選、活動内容、活動期間などを決めるのは各国の政府です。アイルランドの代表は 22 歳であり、もともとアイルランドの若者協議会で活動を行っており、審査を通過して代表になったそうです。アイルランド政府から準備のためのトレーニングも数回受けていました。二人は UNYD としての SNS アカウントをうまく活用して随時サミットの様子を発信していました。また、各国代表用の席に代表として座ったり、アイルランドの大使や元大統領と対談を行ったりと政府と一丸となってサミットで活動していました。他にもメキシコ、スロベニア、オランダ、イタリア、タンザニア、エチオピア、アルベニアなどの UNYD にも会うことができました。やはりヨーロッパの UNYD が多く、アジアはタイだけでした。もちろん日本も UNYD はいません。私は UNYD について知るのが初めてで色々和彼女ら、彼女らに事情を聞きました。「各国の UNYD のウェブサイトに行けば情報が載っているよ！」と教えてくれましたが、日本は UNYD の募集をしていないのでウェブサイトはありませんでした。せっかく素晴らしい機会があるのに、日本がそれを活用できていないことがとてももどかしかったです。（UNYD の詳細について：<https://social.desa.un.org/issues/youth/un-youth-delegate-programme>）



(画像)

アイルランドの UNYD の Instagram (左)

アフリカの UNYD チームの Instagram (右)

日本から参加していたユースについて

日本から来ているユースは、私が把握している限りだとクラファン組の私、徳田さん、高橋さんの3人と持続可能な社会に向けたプラットフォーム（JYPS）から4人、そして慶應義塾大学の蟹江研究所の大学生3人です。未来サミットの参加方法は複数あるが、クラファン組は市民社会枠で申請し、JYPSのうち2名は国連のサイトから、1名は Major Group for Children and Youth というグループのユース枠から参加しており、ゼミの研究生3名と JYPS の1名は日本政府団として公認をもらっています。日本政府団として公認をもらう際の面接や作文などの基準はなかったようです。しかし、日本の政府団ではあるが UNYD として参加しているわけではありません。これは私の推測ですが、日本が UNYD の制度を活用しないのはその際の費用を出さないといけないから、誰を日本のユースの代表として選べばいいのかわからないから、そして UNYD の発言が日本の代表の発言として捉えられるため、政府としてそれにリスクがあるからだと思います。この実態は、ユースが意思決定に参画できておらず、その優先度が低いという日本の国内での現状の延長線だと感じました。もちろん、日本政府団としてユースの一部を今回の国連サミットに招いている点は素晴らしいと思いますが、例えばアイルランドの UNYD が受ける手厚いサポートと比べると、日本政府は最低限のことしかしていないと感じました。

日本の空席について

最終日の23日は、22日に無事採択された「未来のための協定」の若者および将来世代と持続可能性に関する内容を今後どう行うかについて話し合う会議、「Interactive Dialogue」が行われました。市民社会枠で参加している人は基本的に二階のバルコニーから会議を傍聴するのですが、一階の各国代表の席に座っているアイルランドの UNYD が私を一階まで来るように招いてくれました。若者及び将来世代について考えるダイアログであるため、スロベニア、アルベニア、イタリアなどの UNYD を選出している国の代表席には各国の UNYD が座っていました。アルファベット順の席なので、私が座っていたアイルランドの席の近くには日本の席がありました。日本の席は空席でした。若者と将来世代の持続可能な社会について考える会において、他の国が若者を代表として席に就かせている中、日本の席には誰も座っていない。そして、その現状を変えるためにわざわざ日本から来ている若者がその席の真後ろに座っているのにも関わらず、その代表席には座ることができない。まさに、日本の若者の政治参画の状況を表す瞬間だと感じました。



(画像)

若者と将来世代のための持続可能な未来
についての会議で空席の日本代表席



(画像) UNYD とユースオフィストップ
のフェリペさんとの集合写真に混ぜても
らった

今後に向けて

日本若者協議会は、世界中の若者協議会やユースアドボカシー団体とのネットワークを作り、若者の政治参加のためのキャンペーンを行い、最終的には2025年の8月に東京で民主主義ユースサミットを開催する、というグローバルキャンペーンに取り組んでいる最中です。このキャンペーンのパートナーを探すために今回の滞在ではさまざまな人と対話したのですが、「日本から来ている」と言うたびにとてもポジティブなリアクションを受けました。私はUNYDの一員ではないですが、各国のUNYDがあたかも私が一員であるかのように接してくれ、いくつか良い機会を提供してくれました。やはり、世界も日本のさらなる参画を待っているのではないのでしょうか。

未来のための協定の4章「若者及び将来世代」には、若者のための投資を拡大すること、国の政策立案および意思決定プロセスに若者が関与する有意義な機会を提供するためのメカニズムを国レベルで設置すること、国際連合活動への積極的なユースの参画の仕組みづくりを行うことなどが書かれています。日本の現状としては、若者の政治参画のための資金の提供も仕組みづくりもまだ改善の余地があります。例えば、社会活動はなかなかお金にならないため、大学が終わると活動を卒業していく仲間をたくさん見てきました。また、「子ども基本法」の導入によって意思決定の際に若者の声を聞くことが義務化されたのにも関わらず、政府の審議会や懇談会での30代以下のメンバーは1%台にとどまっています。多くの若者があらゆるアンケートで自分の意見が社会や政治に反映されていないと感じると答えており、被選挙権年齢も25歳、もしくは30歳です。今後日本が未来のための協定の約束をどのように守るのか、そして国際的な場での日本の若者の参加をどう後押しするのかに注目するとともに、意味のあるプレイヤーとしてそれらを促していきたいと思えます。（芹ヶ野 瑠奈）

核兵器廃絶に向けて市民の声を届けました

一般社団法人かたわら 高橋悠太 / GeNuine 徳田悠希

1. 未来サミットとは

来年、国連は創立 80 年を迎えますが、自国第一主義が横行し、十分な力を発揮できていません。犯罪や差別につながる AI 使用や、気候変動の加速は、規制や対応を上回るスピードで進んでいます。これらの本質的な解決と、国連中心の国際協調を取り戻すため、事務総長は国連総会に先駆け、9 月 22、23 日と「未来サミット」を開催し、岸田首相（当時）を含む首脳級が出席しました。気候変動を含む各分野の「未来のための協定」への市民社会からの評価は、下記をご覧ください。

【参考】「[国連未来サミットと SDGs 達成に向けた展望 SDGs ジャパンと考える～危機突破の力](#) [ギ【2】](#)」, 足立治郎



(写真) 今年 3 月 24 日、国立競技場に 66,000 人が参加した「未来アクションフェス」実行委員会のみなさんと
(左) 日本の市民社会「SDGs ジャパン」関係者と外務省担当者の意見交換 (右)

2. 「核兵器廃絶」はどのように語られたのか

採択された成果文書「未来のための協定」では、核兵器廃絶に関する文言も盛り込まれました。昨年からは弊法人では明治大・山田寿則さん、長崎大・鈴木達治郎さん、河合公明さん、西田充さん、元駐クウェート大使・小溝泰義さんらと意見交換を実施、初稿から議論をウォッチしてきました。日本の市民の声を届けるため米・国連本部に渡航し、NGO「SDGs ジャパン」や未来アクションフェス関係者らと活動しました。

特定の国が核軍縮の記載に反対していると聞いていたので、核兵器廃絶が成果文書に記されたこと自体は評価できます。一方で、今年1月の草案では「核兵器のない世界を追求する」ことや核兵器禁止条約を念頭に「非人道的で無差別な兵器を禁止する条約の普遍化」などを盛り込んでいました。しかし政府間交渉を経て行動指針は「核兵器のない世界というゴールを推進する」と控えめな表現に。「人道性」にかかわる文言が一部削除など、当初からかなり弱まった内容で合意に至りました。

他方、核拡散防止条約は最終文書を採択できず、核禁条約に核保有国やその同盟国が背を向ける中で、合意に達したことは、核軍縮への新たな出発点になります。（外務省担当者からは「日本が力を入れたのは人間の安全保障や核軍縮などだ」とのコメントあり。）核兵器禁止条約の普遍化にも寄与すると考えています。

主な内容（要旨）は次の通り。▶最終目的は全面完全軍縮。即時目的は核戦争の危険の除去と軍拡競争の回避。▶軍縮・不拡散枠組みの強化。▶非核兵器地帯条約など既存の安全保証の尊重と核軍縮・不拡散の完全で効果的な履行を加速。▶奪いえない原子力の平和利用権利。

【参考】「未来のための協定」原文は[こちら](#)。

なお、現地では、日本の市民社会も様々なサイドイベントに参加・登壇し、採択直前の最終稿に対する分析を踏まえた提言と評価を、SDGs ジャパン加盟団体参加者の連名でいち早く発信しました（核軍縮以外のテーマの評価はぜひ[こちら](#)をご覧ください）。ほか、9月23日には現地からの報告のライブ配信を実施し、21日、22日には、未来アクションフェス実行委員会によるインスタライブに出演しました。



（写真）サミット開会の前々日、中満泉国連事務次長と面会し、「おかげさまでなく、意義あるユース参画を実現したい。未来のための協定の合意は極めて難しいが、徹夜で交渉する」と。

3. 被爆者・核被害者の声と、ユースの参加

私は現在、核兵器廃絶を目指して政策提言を行う一般社団法人「かたわら」を運営しています。昨年は鳴門市議会、藤沢市市議会で核禁条約参加の意見書採択に貢献。理事3名、その他大学生もかかわっています。

同協定では、それぞれの国や国連などの場で意思決定プロセスに若者の参加を後押しすることも明記されました。サミットには約7000名が参加し、うち1600名（20日時点）が若者（15～24歳）でした。期間中、ICAN、ピースポート、核時代平和財団、SGIらとサイドイベントを共催しました。渡航前に、広島・長崎の被爆者団体、NGO、専門家らと意見交換を行いました。被爆者のみなさんのメッセージや、核軍縮プロセスに若者や核被害者の声を反映させる重要性を訴えました。

サミットには世界各国から多くの若者が集まりました。バングラデシュの人権活動家などと交流を深め、「核の問題は環境や人権などあらゆる問題につながっている。横のつながりを持てたことは大きな収穫だ」と感じます。



広島の実牧智之広島県被団協理事長と、田中聡司広島被爆者団体連絡会議事務局長と

4. 核兵器廃絶と、本質的な解決を目指して、活動を続けます

未来サミットを受けて、国連の発信拠点「SDGメディア・ゾーン」から「平和と安全保障の課題における若者のリーダーシップ」について考えるパネルディスカッションに登壇しました。私が、被爆者の方々の苦しみの経験談に心を動かされてこの活動に深く関わるようになったことや、核兵器も気候危機も人類史的な脅威であり、気候変動課題に取り組むユースと連携していることなどに

ついて共有したのに対して、新設された「国連ユース・オフィス」のトップを務めるフェリペ・ポーリエ初代ユース担当事務次長補は「若者は軍拡の流れを止め、共通価値を創ることができる」と賛同を示しました。加えて、彼は「ユースの役割は既存の価値観や枠組みをかき回すこと」と語りました。今後の活動に励む上で大きな手ごたえになりました。

今回、企業とのパートナーシップも広がりました。広島の原色美術印刷社さんから、再生アクリル（回収したアクリルを粉砕し再原料化したもので、製造時のCO2の排出量は71%削減。また再生材の含有率は80%と、環境に配慮）を使った、オリジナルデザインの折り鶴グッズ「アクゾル」を提供いただきました。平和を伝えるお土産として活用させていただきました。

「未来のための協定」は、SDGs（持続可能な開発目標 / 核兵器廃絶は触れていない）の次の目標（2030年～）のベースになります。SDGsで多くの学校や企業が気候変動に関心を寄せたように、核兵器廃絶を目標の1つに掲げられるよう、市民社会と連携して働きかけを続けます。（高橋悠太、徳田悠希）



(写真) フェリペさん、井上波さん（TBS）、モデレーターの根本かおる所長と

ユース参画について政府と対話し、各地で報告しています

政府との対話を継続し、各地のイベントや大学などで未来サミットの経験を共有しています。

「~未来サミットを振り返り、日本での若者の意味のある参画について考える~ #Youth Lead」

内容 未来サミット渡航を踏まえて、日本のユース参加について考えるイベントを開催し、外務省、こども家庭庁、国連広報センターの登壇者と議論しました。（日本若者協議会、Japan Youth Platform for Sustainability、一般社団法人かたわら共催、11月8日）。政府の審議会や懇談会の委員のうち、30代以下の人の割合が1%台であることを指摘し、引き続きの対話を求めました。参加者からは、住む地域や背景などによって、参加ハードルは異なる等が指摘されました。

登壇者 芹ヶ野瑠奈、高橋悠太、JYPS・川和ニコラ、国連広報センター・根本かおる、こども家庭庁・中原茂仁（長官官房（総合政策担当）参事官）、外務省・梶田拓磨（国連企画調整課長）



未来サミットについて発信 長崎市内で開催された「地球市民フェス」（11月24日）でのトークセッション「SDGsのその先」にプロジェクトメンバーの高橋が登壇しました。また、「草の根ロビイング勉強会」（10月11日、NPO市民アドボカシー連盟主催）や、中満泉国連事務次長・軍縮担当上級代表を招いた講演会（立命館大学国際平和ミュージアム）プレ企画（10月18日）等で報告・対話を行いました。



報道 TBS、NHK、朝日新聞、毎日新聞、北海道新聞ほか多くのメディアに掲載されています。

ご支援いただいた皆さま

相島智彦 明智カイト 有坂美紀 五十嵐めぐみ 岩城美保 岩附由香 馬坂哲平
浦田千恵 大島晴美 大住広太 大野和子 小川裕美 奥翔太郎 小澤隆一 尾上隆弥
門更月 川村健太 岸宗克明 北郷美由紀 木下聡 児島久美子 小室卓重
斎藤明日美 さかいようこ 崎山昇 佐々木峻真 清水祐子 杉本泉 高橋由美子
高峰晃 田中恭子 田中友里恵 玉川直美 寺沢貴子 戸田順子 内藤雅義
永井忠 中島優希 永野博子 中村典子 中村奈緒美 西嶋民子 沼崎真奈美
根本かおる 萩佑 橋本遊 林佐智子 林田光弘 平賀宏実 双葉恵
松村真澄 松本恵美子 松本佐恵子 丸岡真吾 箕牧智之 村中千恵
柳原良枝 柳瑠音 山子瑞恵 山本江里香 山本伸子 渡部朋子

ご支援くださった方々のお名前を 50 音順で記しています

収支報告書

2024年12月9日

名称：「気候危機の解決・核兵器の廃絶を！
国連未来サミットに日本のユースの声を届けたい！」プロジェクト

資金管理団体：一般社団法人かたわら

収入	日付	費目	金額	備考
	9月30日	クラウドファンディング（オンライン）	479,000	手数料を除く
	9月30日	クラウドファンディング（振込）	70,000	
	7月24日	ヒロシマ平和創造基金	100,000	
	10月2日	核なき世界基金	100,000	
	10月3日	一般社団法人かたわら 自己資金	22,563	
		合計	771,563	

支出	日付	費目	金額	備考
	9月19日	徳田悠希 航空券	218,370	
	9月19日	徳田悠希 宿泊費（Airbnb）	100,793	
	9月16日	芹ヶ野瑠奈 航空券	124,470	
	9月16日	芹ヶ野瑠奈 宿泊費	26,280	友人宅含む
	9月19日	高橋悠太 航空券	191,650	
	9月19日	高橋悠太 宿泊費（Airbnb）	110,000	
		合計	¥771,563	

※資金管理について、一般社団法人かたわらが本プロジェクトに係る会計帳簿を作成し
収支状況等を適時かつ正確に記録し、適正に管理・執行します。